

板橋区かわまちづくり基本計画（骨子案）について

■ 目次

第1章	計画の基本的事項	・ ・ ・ 3
第2章	地域概況	・ ・ ・ 6
第3章	現状分析・特徴・課題	・ ・ ・ 11
第4章	かわまちづくりの方向性	・ ・ ・ 17
第5章	かわまちづくりの展開	・ ・ ・ 19
第6章	かわまちづくりの推進	・ ・ ・ 26



第1章 計画の基本的事項

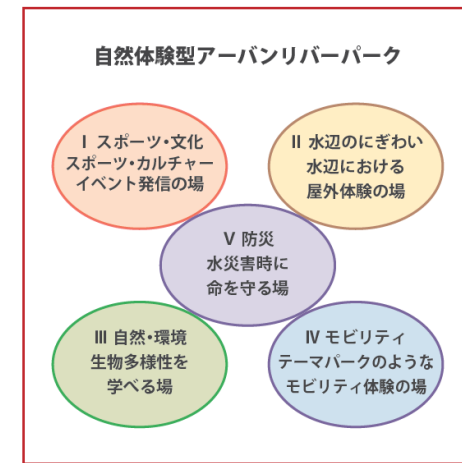
■計画の基本的事項

1.1 計画策定の背景と目的

- 令和3年8月20日、国が実施するかわまちづくり支援制度に、板橋区かわまちづくり計画が登録されています。本計画は、防災の要素をプラスしている点が特徴で、舟渡・新河岸地区の水害対策を目的とした新河岸陸上競技場と荒川堤防天端をつなぐ連絡通路の整備を契機にスタートしています。
- 令和6年1月29日には、にぎわい創出に向けた取組のさらなる充実をめざし、取組の基本方針を示す「板橋区かわまちづくり基本構想『ITTAKAWAMACHI PROJECT』」を発表しています。
- 基本構想の具体化及び板橋区かわまちづくり計画を推進するため、かわまちづくりの基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す「板橋区かわまちづくり基本計画」を策定します。



板橋区かわまちづくり
計画登録



板橋区かわまちづくり
コンセプト

1.2 計画の対象エリア

- 対象範囲は、一級河川荒川の板橋区区間（右岸24.8km～28.6km）の範囲としています。
- かわとまちが一体となるにぎわいづくりに向けて、まち側に立地する「リサイクルプラザ」及び「新河岸陸上競技場」を含む範囲としています。



対象エリア

計画の基本的事項

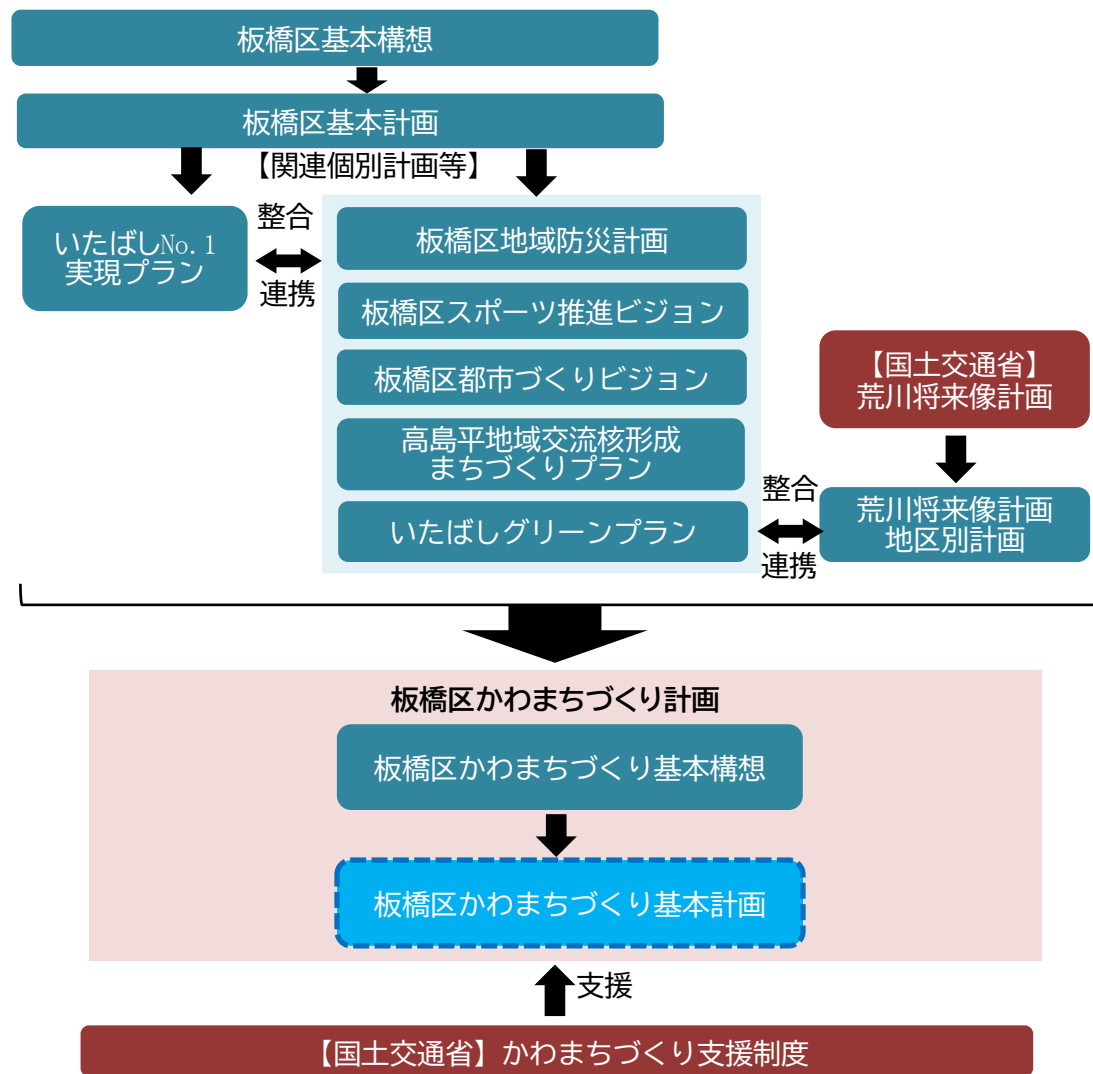
1.3 計画の位置づけ

○基本計画は、「板橋区基本構想」及び「板橋区基本計画」を上位計画とした関連個別計画等を踏まえ、区のかまちづくりにおけるハード施策やソフト施策に取り組んでいくにあたって、基本的な考え方や整備・取組の方向性を示す計画として位置づけます。

1.4 かまちづくりのこれまでの取組

○区、地元住民、事業者、河川管理者が連携し、河川利用や来街者の健康増進、交流人口の拡大、地域の防災力の向上を図る取組を推進するため、「板橋区かわまちづくり協議会」を令和4年3月に設立しています。

○区のかまちづくりの第1期整備として、国との共同事業により連絡通路の整備を令和8年3月完成予定で進めています。



計画の体系図

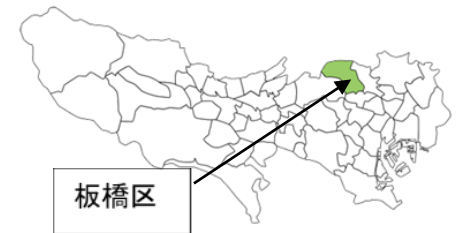
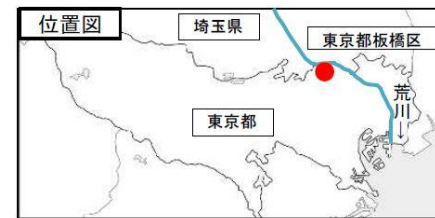


第2章 地域概況

■地域概況

2.1 まちの概況

- (1)位置・地勢：計画対象エリアは区の北西部、埼玉県との都県境に位置しています。
- (2)人口：計画対象エリアとその周辺を含む高島平・舟渡地域の総人口は65,646人、うち新河岸地域は4,943人、舟渡地域は9,802人となっています。(R7.4.1時点)
- (3)自然・環境：計画対象エリアである荒川河川敷(荒川戸田橋緑地)は、区内の都市公園面積の約3割を占め、広大な草地や、多くの生き物が住むワンド(生物生態園)など、重要な水と緑の軸となっています。
- (4)土地利用：計画対象エリアは準工業地域・工業専用地域に隣接し、23区屈指のものづくりのまちとしての重要な役割を担っています。



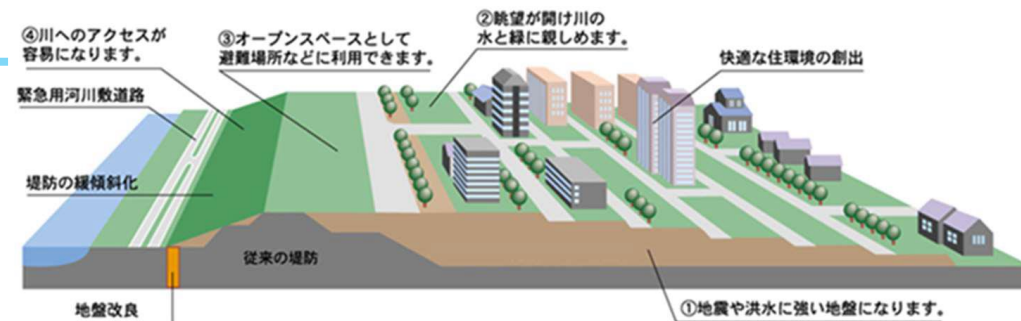
東京都の行政区画と板橋区の位置



ワンド(生物生態園)

2.2 かわの概況

- (1)洪水・治水：荒川は「荒ぶる川」として洪水氾濫を繰り返し、甚大な被害をもたらしてきたため、堤防の決壊を防ぐための根幹的な対策として、高規格堤防の整備等が進められてきました。
- (2)河川環境：荒川下流部の水際はヨシ原や干潟をはじめとした良好な河川景観が形成されています。



出典：社会資本整備審議会河川分科会河川整備基本方針検討小委員会
参考資料2-1荒川水系河川整備基本方針 流域および河川の概要(案)(R6.9.30、国土交通省)
高規格堤防の整備

2.3 対象地域とその周辺の利活用状況

(1)河川敷・周辺の施設
荒川戸田橋野球場・サッカー場・陸上競技場・河川管理通路は、主にスポーツ、レクリエーション、憩いの場として利用されています。
また、生物生態園や草地広場は自然との触れ合い、散策、憩いの場、リサイクルプラザは環境に関する講座等の学習の場として利用されています。

(2)施設やイベントの利用状況
近年の気候変動等の影響で、利用者数は従前に比べて少ない状況です。荒川の豊かな水辺空間を活かしたイベントを継続的に開催することで、多くの方が来場しています。

主な施設の利用者数（人）：最新年度（令和6年度）

	河川敷体育施設				バーベキュー	リサイクルプラザ
	野球場	陸上競技場	サッカー場	合計		
R6	165,375	30,220	38,318	233,913	1,865	28,768

河川空間の利用者数（人）：最新年度（令和6年度）

	利用場所				利用形態				合計
	高水敷	水際	水面	堤防	スポーツ	釣り	水遊び	散策等	
R6	30,063	180	102	5,556	27,224	0	180	8,497	35,901

出典：河川水辺の国勢調査 空間利用実態調査（国土交通省）



荒川戸田橋野球場



荒川戸田橋陸上競技場



草地広場



リサイクルプラザ

周辺施設の一例



来場者数：約7千人（2024）
板橋Cityマラソン（3月）



来場者数：約55万人（2024）
いたばし花火大会（8月）

荒川河川敷でのイベント概要

2.3 計画対象エリア及び周辺の現況

(3) 交通手段やアクセス

①公共交通機関（電車）

対象地域まで主要駅から徒歩で約20～30分程度

- ・都営三田線：西台駅、高島平駅等
- ・JR埼京線：浮間舟渡駅 など

②公共交通機関（バス）

対象地域まで周辺のバス停から徒歩で約5分程度

- ・周辺バス停：新河岸都営住宅前、舟渡水辺公園、舟渡四丁目、舟渡小学校、舟渡町、舟渡一丁目

③駐車場

かわ側の「荒川戸田橋緑地駐車場」は令和4年度において、年間約42,000台が利用

④シエアサイクル

舟渡・新河岸地区には21か所サイクルポートが設置されている一方、**高水敷には設置なし**



対象地域周辺の路線及び主要駅



荒川河川敷駐車場（荒川戸田橋下）



シェアサイクル（リサイクルプラザ）

2.3 対象地域とその周辺の利活用状況

(4)防災活用

1) 水害時

○舟渡地区では、地区計画に「**緊急一時退避場所**」の整備を位置付け、公園等の高台化、非浸水階の整備等を行っています。

○新河岸地区では、かわまちづくりの第1期整備として進めている新河岸陸上競技場と荒川堤防天端をつなぐ**連絡通路を整備**を行っています。

2) 震災時

○計画対象エリアでは、**避難場所**として、また、**水路での移動用拠点や臨時ヘリポート、臨時広域活動拠点**としての活用が見込まれます。



舟渡地区・「MFLP・LOGIFRONT 東京板橋」



新河岸地区・連絡通路の整備



凡 例			
	緊急輸送路(高速道路)		公共施設
	緊急輸送路(一般道路)		災害時臨時避難着陸場等(地域防災計画)
	緊急用河川敷道路(幅員 7.5m以上)		輸送拠点
	緊急用河川敷道路(幅員 5.5m以上7.5m未満)		緊急用船着場
	緊急用河川敷道路(幅員 5.5m未満)		災害備蓄倉庫
	緊急用橋梁アクセス道路(幅員 標準4.0m)		災害拠点病院/災害拠点連携病院
	避難所		救急指定医療機関等
	福祉避難所		
	給水場所		
	避難場所		

ゾーニング候補地

- 臨時ヘリポート
- 臨時広域活動拠点
- 移動用拠点
- 復旧・復興関連仮置場(利用可能な土地)
- 消防用水取水可能箇所

※本編のルール、留意事項等により、適切に使用することとする。



第3章 現状分析・特徴・課題

3.1 ニーズの把握（現状分析）

(1)区民ニーズ

効果的な整備を実施するために的確なニーズの把握努めるためのアンケート調査を実施しています。

①調査概要

まち側で開催したイベントと調査の概要

イベント名	日時	調査概要
荒川放水路通水100周年アニバーサリーフェス	2024年10月12日（土）	○対象：イベント来場者 ○形式：イベント会場で直接回答 ○回収：502票
板橋区民まつり	2024年10月19日（土）～20日（日）	
高島平まつり	2024年10月27日（日）	
第47回板橋農業まつり	2024年11月9日（土）～10日（日）	
りよくちであそぼうVOL.3	2024年11月16日（土）	
りよくちであそぼうVOL.4	2024年11月17日（日）	○回収：502票
りよくちであそぼうVOL.5	2024年11月23日（土）	

かわまちづくり計画対象地で開催したイベントと調査の概要

イベント名	日時	調査概要
板橋Cityマラソン2025	2025年3月16日（日）	○対象：イベント来場者 ○形式：シール投票 ○回答：マラソン106票、たこあげ110票
板橋区親子たこあげ大会	2025年4月26日（土）	

WEBアンケート調査の概要

- 対象：かわまちづくり計画対象エリアに来訪したことのあある板橋区内外3 km圏内の住民及び3 km圏外の板橋区民
- 期間：令和7（2025）年3月14日（金）～19日（水）
- 回収：826票

②調査結果（主なご意見）

■現在の利用傾向

- 滞在時間：30分～2時間。高い年代ほど短い傾向
- 利用頻度：数年に1回、年に1回程度
- 利用したい施設：まち側の公園が人気（都立浮間公園・舟渡水辺公園）

■アクセスの傾向

- 河川敷へのアクセス：自転車・徒歩・車が中心
- 「戸田橋周辺の入口利用」が多い

■にぎわいの観点

- 人気の高いコンテンツ：バーベキュー、カフェ・レストラン・キッチンカー、散策・ウォーキング、キャンプ、水遊び など
- 年代により、サイクリング、新たなスポーツ機会、音楽フェス等イベント、環境学習・自然体験も人気

■機能改善の観点

- トイレ機能の不便さに対する改善意見が多数
- 休憩所や日よけ、水道・照明ライフライン設置等の施設改善の意見もあり
- まち側からのアプローチの改善意見もあり（最寄り駅からのアクセス（周遊バス）、周辺の駐輪場・駐車場の充実など）

■現状分析・特徴・課題

3.1 ニーズの把握（現状分析）

(2)事業者ニーズ

今後の整備や運営、公民連携の検討材料とするためのアンケートやサウンディング調査を実施しています。

①アンケート調査

- 対象：かわまちづくりやまちづくり、水辺、公園、体育施設等の事業に取り組んでいる企業や地域団体等
- 期間：令和6（2024）年12月～令和7（2025）年3月
- 回収：25者

調査結果

■整備・利活用・アクセスについて

- シンボルとなる場所や建物。電気・水道・トイレ、適度な休憩所、売店・飲料関連販売機等の整備
- サイクルポート、駐車・駐輪場所。シャトルバス運行
- 協議の場を構築

■環境保全・災害時の活用・対応について

- 生態系や生き物への配慮、活動の周知
- 災害時に機能する地域整備
- 増水後の土砂の除去等への配慮

■情報公開について

- 沿川住民、企業に対する適宜の連絡と情報公開

②サウンディング調査

日時	内容
令和6（2024）年12月23日（月）	募集開始
令和7（2025）年1月16日（木）	事前説明会
令和7（2025）年2月6日（木）～2月21日（金）	ヒアリング（12者）

調査結果

■事業手法について

- 設置管理許可制度やPark-PFI制度等の活用で民間事業者による効果的な管理運営が可能。管理と収益を分けた公募（DB方式や指定管理者制度等）が望ましい。
- にぎわい創出しやすい箇所から集中した集客が必要。
- 先進的事業となる可能性も高く、条件次第で参画可能。
- ニーズ把握のためトライアルサウンディングも効果的

■整備内容について

- 電力、水道等のライフラインの整備が必要。
- 民間収益施設と駐車場の距離は、近いほうが望ましい。
- 各ゾーンをつなぐ車両用の園路が必要。
- 無料のシャトルバス運行等の対応を図ることが必要。
- 飲食やカフェ、キャンプ場やバーベキュー場等
- 定期的なイベント開催できる会場等
- ロケーションを活かすことも重要。

■維持管理について

- 関連する指定管理施設と一体で管理することが効率的。
- 洪水時の対応については、自治体での対応が必要。
- 大規模修繕は、自治体での費用負担が必要。

3.2 計画エリアの特徴

(1)河川の特徴

1) 緊急用河川敷道路に関する利用ルール

項目	概要
災害時の利用	災害時の救助や物資輸送の迅速な対応
平時の利用	散策やジョギング、サイクリング等
禁止事項	無許可車両の通行、長時間の占有、火気の使用、ゴミの不法投棄

2) 緊急用船着場に関する利用ルール（荒川下流）

項目	概要
対象者	事業者、NPO法人、個人
対象船舶	水上バス、観光ツアー船、プレジャーボート、非動力船
平時の利用	対象船舶の発着場、屋形船等の臨時・単発イベント日の出から日没まで（照明設備のある船舶は夜間利用も可）
利用可能時間	原則20分以内
接岸時間	事前の利用者登録と利用申請
手続き	無断利用、船舶への乗降以外での利用、長時間停泊、危険行為等
禁止事項	安全管理とルール順守
利用条件	※公的機関による緊急時の捜索・救助や巡視・管理が優先

出典：船着場利用の手引き（荒川下流河川事務所）



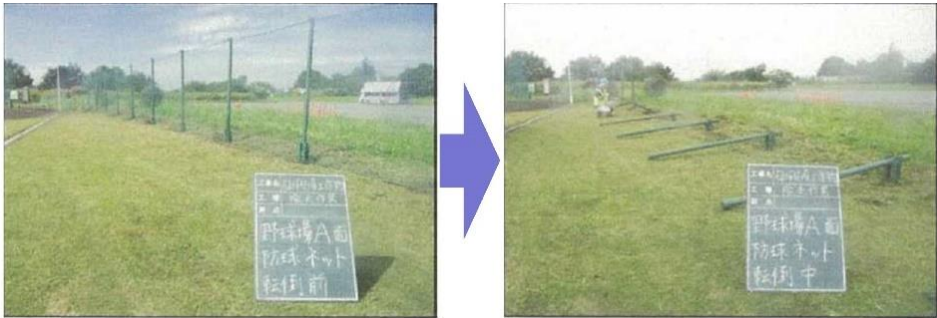
出典：荒川下流河川事務所ウェブサイト
緊急用河川敷道路



出典：船着場利用の手引き
板橋緊急用船着場

3) 工作物撤去基準等

○仮設のトイレやグラウンドのサッカーゴール等の工作物は洪水時に事前に一時撤去することが河川法により定められているため、留意が必要



- ・野球場の防球ネットは、洪水時に転倒可能とすること
- ・トイレは、洪水時に搬出可能な移動式とすること

出典：河川の管理について（令和元年、国土交通省水管理・国土保全局河川環境課）をもとに作成

河川法に基づく工作物撤去基準等

4) 荒川下流における河川敷の利用制限事項等

分類	制限内容
禁止行為	ゴミの不法投棄、たき火やごみの焼却、犬のノーリード・フンの放置、無許可の自動車・オートバイの進入
危険行為	バットやゴルフクラブの使用、バーベキューや煮炊き、ドローン・ラジコン機の飛行（指定場所を除く）
迷惑行為	騒音を発する行為、夜間（22時～翌6時）の花火
マナー	歩行者との接触防止のための自転車の徐行・譲り合い、河川敷道路上への荷物放置、キャッチボール等の通行妨害

3.2 計画エリアの特徴

(2) 施設や周辺の特徴

1) 指定管理施設

体育施設

施設名	新河岸陸上競技場、新河岸庭球場、荒川戸田橋陸上競技場、荒川戸田橋野球場、荒川戸田橋サッカー場
導入時期	平成17年度から導入し、現在で第5期指定期間(21年目)
指定管理者	東京ドームグループ
指定管理期間	令和7年4月1日から令和12年3月31日まで(5年間)
業務内容	東京都下水道局用地及び荒川河川敷用地を活用した陸上競技場、庭球場、野球場、サッカー場の管理運営 など
収入源	駐車場、各施設使用料の収入 など

リサイクルプラザ

施設名	リサイクルプラザ
導入時期	平成17年度から導入し、現在で第5期指定期間(21年目)
指定管理者	板橋3Rみらいプロジェクト
指定管理期間	令和7年4月1日から令和12年3月31日まで(5年間)
業務内容	荒川河川敷に隣接した立地の利便性を活かして、駐車場、シャワー室、屋上の野鳥観察舎等の管理運営 など
収入源	駐車場、シャワー室、ロッカー室、多目的室、不用品販売等の収入

2) 用途地域

○かわまちづくり対象エリアである舟渡・新河岸地区は、東京都内でも数少ない「工業専用地域」に指定

3) 高島平のまちづくり

○高島平地域では、軸となる緑地や道路空間を活用し、駅の南北方向やまちの東西方向を一体的な歩行空間でつなぐことで、回遊性が高く居心地の良い「人中心のまちづくり」を推進

<高島平地域における交流核>



高島平地域における交流核

■現状分析・特徴・課題

3.3 課題

○区のかまちづくりを進めていくにあたって、解決すべき主な課題を以下のとおり設定しています。

■課題1：河川空間を訪れる人々の増加

新たな利用者層獲得に向けて、河川敷の広大なオープンスペースを活用し、ニーズを踏まえた魅力的なコンテンツやイベント等により、河川空間を訪れる人々を増やしていく必要があります。

■課題2：既存機能の充実

河川敷に滞在したくなるとともに繰り返し来たいと思えるよう、トイレ機能の改善や休憩所・日よけ等設置による暑さ対策など既存機能の充実や、特徴であるみどりに恵まれた荒川河川敷の自然環境の維持・充実を図っていく必要があります。



日陰の少ない荒川河川敷の様子

■課題3：インパクトのある事業展開や安定した運営

様々な取組の促進や事業手法等を工夫するとともに、民間事業者のノウハウや資金等を活用し、インパクトのある事業展開や継続可能な安定した運営を進めていく必要があります。

■課題4：防災機能の充実

平時におけるにぎわい創出はもとより、気候変動等による激甚災害が増加していることなどから、災害時をより意識し、さらなる防災機能の充実を図る必要があります。

■課題5：特徴を活かしたまちづくりへの貢献

周辺エリア間で連携し、相互の課題解決を図るとともに、特徴を活かした将来的なまちづくりに貢献する取組を進めていく必要があります。



第4章 かわまちづくりの方向性

■かわまちづくりの方向性

4.1 かわまちづくりの基本的な考え方

- にぎわい創出と防災の2つを軸に魅力及び機能向上
- 基本構想掲示の5つのコンセプトを踏まえた方向性
- 課題解決のための5つの視点で整備や取組を推進

4.2 かわまちづくりの5つの視点

■視点①：区のブランドとなる充実したコンテンツの創出

新たな利用者層を獲得し、河川空間を訪れる人々を増やしていくため、区のブランドとなる充実したコンテンツを創出

■視点②：既存機能の充実

体育施設等をはじめとした河川空間利用者の利便性向上、みどりに恵まれた河川環境を活かすための既存機能の充実

■視点③：公民連携の推進

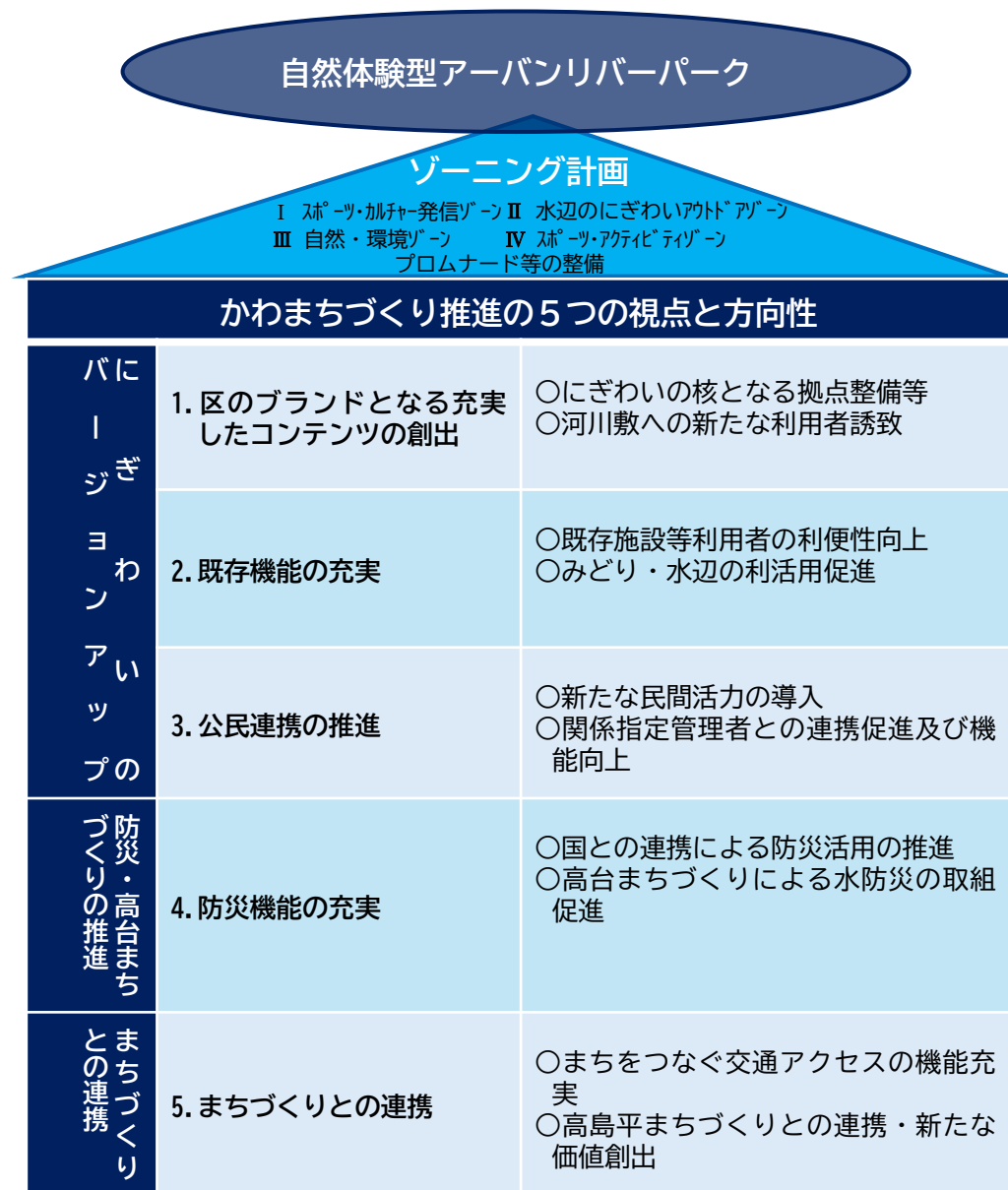
インパクトのある事業展開や安定した運営を行うため、事業手法を工夫するとともに、民間事業者のノウハウ等の活用による公民連携を推進

■視点④：防災機能の充実

震災時における支援物資等の拠点としての役割や水害対策である高台まちづくりのさらなる推進に向けた防災機能の充実

■視点⑤：まちづくりとの連携

かわ側とまち側のつながりにより、相互の課題解決を図るとともに新たな価値を創出するためのまちづくりとの連携



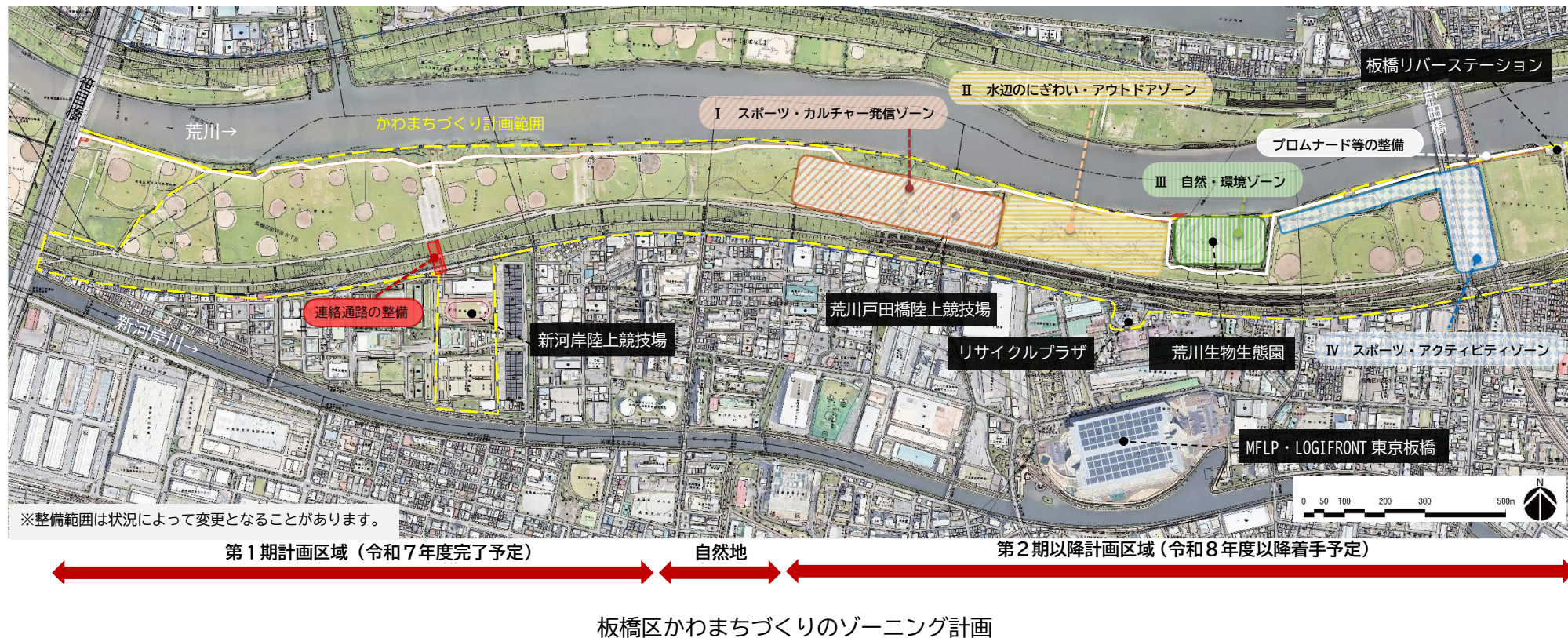
かわまちづくりの方向性



第5章 かわまちづくりの展開

■かわまちづくりの展開

5.1 ゾーニング計画



■かわまちづくりの展開

5.2 各ゾーニングにおける展開

■プロムナード等の整備（全体エリア）

■めざすべくゾーニング像

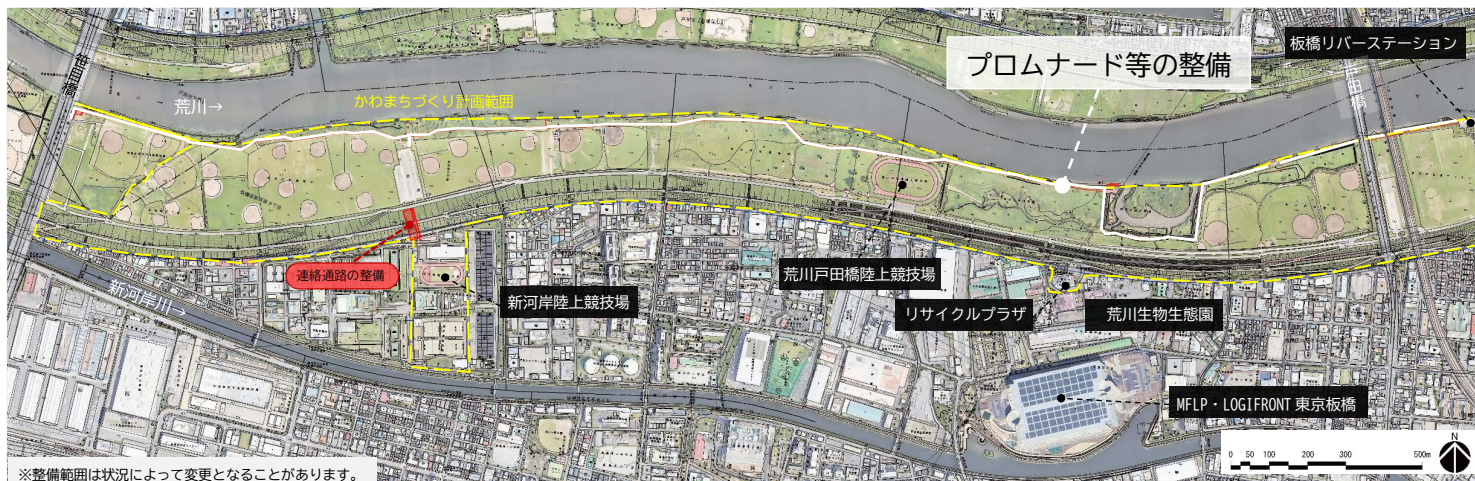
各ゾーンの特徴を活かした取組の展開や各ゾーンをつなぐことで、連鎖的な水辺空間を創出します。

■整備の方向性

プロムナードや親水護岸を整備し、エリア全体の回遊性向上、水際・水面活用を推進します。

■取組内容

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」でお示します。



※整備範囲は状況によって変更となることがあります。

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」でお示します。

■かわまちづくりの展開

5.2 各ゾーニングにおける展開

■ I. スポーツ・カルチャー発信ゾーン

■めざすべくゾーニング像

スポーツ機能の拡充や様々なイベントを開催することで、多くの人々が訪れ、活気あふれる場をめざします。

■整備の方向性

ラグビー場の整備や自然を活かした広大なオープンスペースを設け、大規模イベント等の拠点として活用を図ります。

■取組内容

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」でお示します。



スポーツ・カルチャー発信ゾーンの平面エリア図

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」でお示します。

スポーツ・カルチャー発信ゾーンのイメージ図

■かわまちづくりの展開

5.2 各ゾーニングにおける展開

■Ⅱ. 水辺のにぎわい・アウトドアゾーン

■めざすべくゾーニング像

水辺空間の利活用や屋外体験等のレクリエーションにより、誰もが楽しめ、憩える場をめざします。

■整備の方向性

親水広場の整備やカフェ・レストラン機能を設けるとともに、リサイクルプラザや自然地の利活用を見据え、かわまちづくりの拠点とします。

■取組内容

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」で
示します。



水辺のにぎわい・アウトドアゾーンの平面エリア図

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」
で示します。

水辺のにぎわい・アウトドアゾーンのイメージ図

■かわまちづくりの展開

5.2 各ゾーニングにおける展開

■Ⅲ. 自然・環境ゾーン

■めざすべくゾーニング像

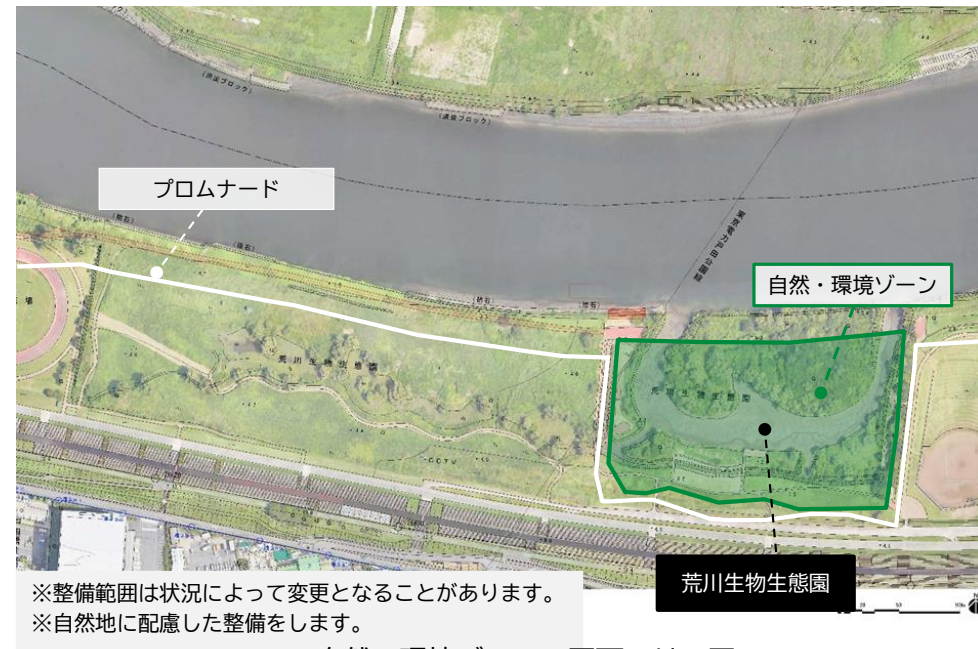
豊富な緑や河川環境、多様な生物の生息地である自然環境を守り、みどりあふれる場をめざします。

■整備の方向性

生物生態園のワンド等の地形を活かし、自然に触れ合え学べる機会を創出することで、みどりの拠点として活用する。

■取組内容

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」で
示します。



自然・環境ゾーンの平面エリア図

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」で
示します。

自然・環境ゾーンのイメージ図

■かわまちづくりの展開

5.2 各ゾーニングにおける展開

■IV. スポーツ・アクティビティゾーン

■めざすべくゾーニング像

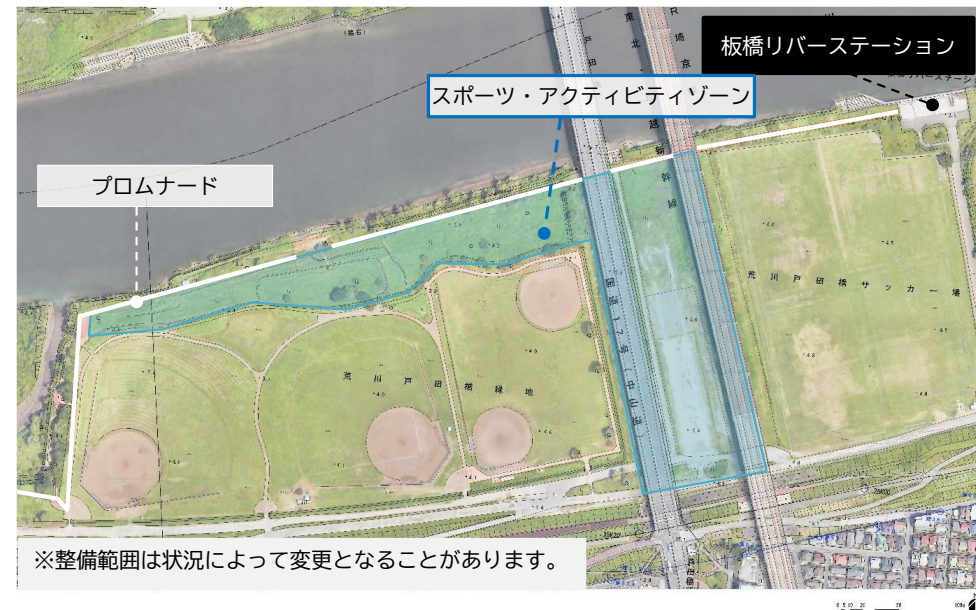
新たなアクティビティの提供やスポーツ利用者等の利便性向上を図り、たくさんの人々にぎわう場をめざします。

■整備の方向性

マウンテンバイクコース等の整備やキッチンカーの配置・トイレの充実など、かわまちづくりの玄関口となる駐車場の充実を図ります。

■取組内容

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」で
示します。



スポーツ・アクティビティゾーンの平面エリア図

「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」
で示します。

スポーツ・アクティビティゾーンのイメージ図



第6章 かわまちづくりの推進







■かわまちづくりの推進

6.1 事業手法

(1) 公民連携による事業手法の比較

公募設置管理制度（Park-PFI）などの様々な民間活力手法について、整備・維持管理運営両面からの比較・検討状況についてお示しします。

事業手法の比較

事業手法 【指定期間】	制度概要	特徴	事例
1. 指定管理者制度と 公募設置管理制度（Park-PFI）の併用 【20年間】	公園全体の維持管理は指定管理者制度、一部の収益施設はPark-PFIで整備・運営	行政の負担軽減と民間の創意工夫の両立が可能 契約管理が煩雑になる可能性あり	川の駅「伊豆城山」 （静岡県伊豆の国市） 
2. 公募設置管理制度（Park-PFI） 【20年間】	公園の一部（飲食店・売店等）を民間が整備・運営し、全体の維持管理も担う	財政負担の軽減、民間の創意工夫を活用可能 民間の事業採算性に依存しやすい	IKE SUNPARK （東京都豊島区） 
3. 設置管理許可制度 【10年間（更新可能）】	民間が施設を設置・管理し、行政に使用料を支払う	柔軟な運営が可能 公園全体の統一的な管理が難しい	南池袋公園 （東京都豊島区） 
4. PMO型指定管理 （包括型管理） 【20年間】	民間が公園全体の維持管理、施設整備、イベント運営まで一括で担う	一体的なマネジメントでにぎわい創出が可能 高度なマネジメント能力が必要	大阪城公園 （大阪府大阪市） 
5. 指定管理者制度によるソフト事業の充実 【3～10年間】	指定管理者がイベント等のソフト事業を展開し、にぎわいを創出	地域特性を活かした柔軟な運営が可能、住民参加型の運営に適している 収益性が低く、持続的な事業展開には支援が必要な場合あり	やすらぎ堤 （新潟県新潟市） 
6. 設計施工一括発注（デザインビルド） 【案件次第】	設計と施工を一括で民間に発注する方法で、運営が別途契約	設計・施工の一体化により工期短縮、コスト最適化 初期コストが高額になりやすい 整備と運営の一体性が確保しにくい	総合レクリエーション公園 （東京都江戸川区） DBとPark-PFIの併用  出典： 江戸川区ウェブサイト

■かわまちづくりの推進

6.1 事業手法

(2) 公民連携の方向性

○公民連携を進めていく上での課題や課題を踏まえた公民連携の取組の方向性は次のとおりです。

① 区の初期投資（整備）が一定必要

- 多額の経費を施設整備等の初期投資に要することから収益還元は難しく、インフラ整備等は事業者の負担にならないように配慮が必要
- 全体の事業規模及び区がどこまで投資を可能とするのか、早い段階での開示を期待

② 集客に向けたデータ取得やかわまちづくりの機運醸成を図ることが必要

- 状況に合わせ事業に可変性を持たせるなど、にぎわいを創出しやすい箇所から集中して集客を行うことが必要。

③ 関連する指定管理者との連携や協議が必要

- 資金調達の面からも参入しやすい事業手法とし、管理業務と収益事業を別に分けた公募（Design(デザイン)-Build(ビルド)方式や指定管理者制度等）が望ましい
- 区内の関連する指定管理施設と一体で管理することが効率的

今後の方向性：

事業試行の準備期間を設けながら、民間事業者が参入可能な手法を検討・工夫し、整備につなげていきます。

6.2 整備目標

- 本計画の期間は、中長期的な視点で推進していく必要があります。

詳細は「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」でお示しします。

6.3 評価指標（KPI）の設定

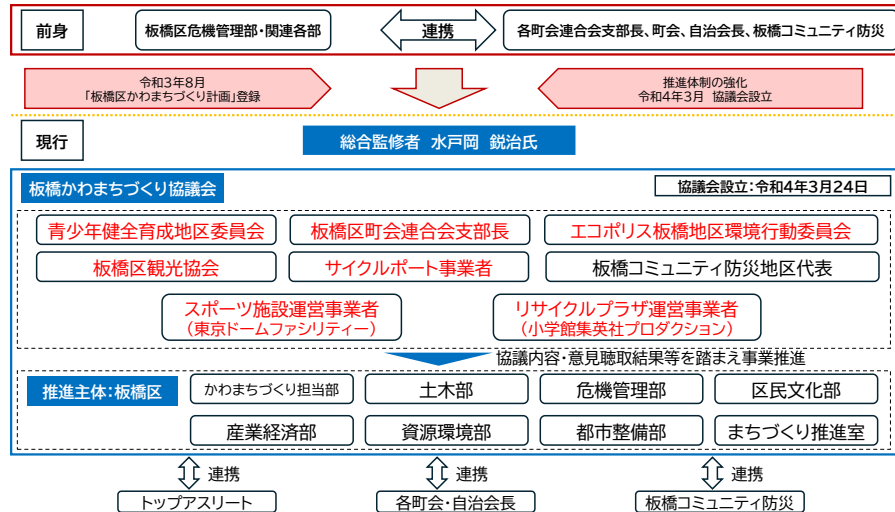
- 本計画を進めるにあたり、継続的なモニタリングと評価のため、評価指標（KPI）を設定します。
- 定量的な目標として、河川敷のスポーツ施設利用者数や連絡通路の利用者数、サイクルポート等、定性的な目標として、拠点間の活性化ビジョン等を検討しています。

詳細は「板橋区かわまちづくり基本計画（原案）」でお示しします。

■かわまちづくりの推進

6.4 かわまちづくりの推進体制

○下記体制の板橋区かわまちづくり協議会で審議を諮り、計画を推進していきます。



板橋区かわまちづくり協議会の体制図

(1)維持管理計画書

以下の役割分担で行うものとし、継続的に有効な利用を図ります。また、日常的な施設管理や清掃等については、「板橋区かわまちづくり協議会」と連携して行う予定です。

- 河川管理用通路（親水プロムナード）：国交省
※表面管理は区で管理
- その他（連絡通路・親水護岸等）：板橋区

(2)安全な河川利用に向けた取組

河川利用者の安全確保に向け、以下のいずれかの者が運営組織のメンバーに参画し、安全面での指導及び安全確保を行う体制を確保します。

- ①水辺の体験活動に関する指導者
(川に学ぶ体験活動協議会川の指導者認定者等)
- ②急流河川の救助者として認定を受けた者
(RESCUE3国際認定者等)
- ③水難救助に関する資格を有する者
(日本赤十字社水上安全法救助員資格等)

生物生態園を活用した環境学習や親水護岸部等を活用した水面利用者等に対して、安全面の教育及び普及啓発を実施します。



河川の安全な利用の指導（イメージ）
出典：川に学ぶ体験活動協議会ウェブサイト

(3)基本計画策定に向けたスケジュール

R7.7
協議会へ
骨子案報告

R7.8
議会
報告

R8.1
協議会へ原案
報告

R8.2
議会
報告

